

## 演内容要約

本講演では、幼少期の体験や放送現場での経験、地域での人との出会いを通して、「言葉」「表情」「人とのつながり」が人の人生や社会に与える影響について語られた。

講師は、コミュニケーションは理屈や技術だけで成り立つものではなく、日常の会話や雑談、表情、態度といった非言語的要素を含めた総合的な営みであると強調する。方言や話し方も、その人が育った環境や価値観を映す大切な文化であり、正解・不正解で切り分けるものではないと述べた。



また、孔子の教えに基づく「仁・義・礼・智・信」を人生や地域社会の指針として紹介し、とりわけ「仁（思いやり）」と「義（期待に応え、裏切らないこと）」の重要性を、具体的な人物や実体験を通して説明した。人は多くの選択を自分一人で行っているように見えて、実際には家族や周囲の人の言葉や支えによって導かれていることが多いと語る。



さらに、少子高齢化や孤立が進む現代社会において、「人をひとりぼっちにしない」「自分もひとりぼっちにならない」ことが、地域の健康と豊かさを守る鍵であると指摘した。特別なことをするのではなく、挨拶を交わす、声をかける、雑談をするなど、日常の小さな行動が信頼関係や絆を生み出すと述べた。

講演の終盤では、言葉や知識を知っているだけで満足するのではなく、それを行動に移し、地域や他者のために生かすことの大切さが語られた。人との会話や関わりこそが、心の健康を保ち、人生を豊かにする最も身近で効果的な方法であるというメッセージで講演は締めくくられた。

